



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。」(エレミヤ 31:3~4)



エターナル・ラブ・イスラエルは、日本国内でユダヤ人に福音を伝える働きです。

- 事務局：〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 TEL:090-8729-0856
- メール：eternalloveisrael@gmail.com ●ホームページ：<http://eli.holy.jp>
- 銀行口座：三菱東京 UFJ 銀行 武蔵新城市駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル



代表：宮本 純子(聖契神学校卒業、WMTC 世界宣教研修センター卒業)

☆プリムを祝う☆



ハレルヤ！主の聖名を心から賛美いたします。

いつもエターナル・ラブ・イスラエルの働きのためにお祈りと尊い献金で支えてくださり心から感謝致します。

今年は、3月16日から18日までプリムの祭りが祝われました。

エステル記のプリムの祭りは、アダル月の14日にお祝いします。

プリムは、子供も大人も仮装をする楽しいお祭りです。これは、エステルがユダヤ人であることを隠していたことにちなんでいます。

ユダヤ教の会堂シナゴグでは「メギラー」としてエステル記が朗読されます。その時に「エステル」と「モルデカイ」の名前が呼ばれると歓声をあげ、逆に宿敵である「ハマン」の名前が出てくる度にガラガラと音の鳴るオモチャを鳴らし、足を踏み鳴らして音を出します。

ハバット・ジャパン東京でも仮装をしながらエステル記の朗読をしました。

プリムでは「オズネイ・ハマン(ハマンの耳)」という三角形のお菓子を食べます。これはハマンが三角形の帽子をかぶっていたことにちなんでいます。

そしてこの日は、町中の貧しい人々に贈り物をします。

エステル記には神様の名前は全く出てきませんが、エステルやモルデカイの背後で働かれる神様の存在がわかります。

ユダヤ人を絶滅させるために、ハマンは、「プル」つまり「くじ」を引いて決めたのです。プルの複数形が「プリム」なので、それが祭りの名前となりました。ハマンは、ユダヤ人を滅ぼすのに、くじを投げて日を選びました。その日がユダヤ人の祭りの日となり、悲しみが喜びに変わったのです。

「くじは、ひざに投げられるが、そのすべての決定は、主から来る。」箴言 16:33

エステル記の主人公は、生きて働いておられる神様です。神様は、不可能と思えるような状況の中でユダヤ民族を救うために、エステルやモルデカイを使われ、その背後で働かれていたのです。

「あなたがもし、このような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救がユダヤ人のために起るでしょう。しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」エステル 4:14

私たちが、今の時代に生かされているのは、決して偶然ではなく、意味があります。エステルやモルデカイのように、どのような状況でも神様により頼み、従う者として歩んでいきましょう。

☆ユダヤ人と桜を楽しむ☆



去る4月2日、東京都世田谷区の砧公園で、3年ぶりに日本イスラエル親善協会主催のお花見が実施され、たくさんのユダヤ人の方とイスラエルを愛する日本人約70名が参加し桜を楽しみました。駐日イスラエル大使館からはイスラエル・ストゥルロヴ公使、エフラット文化・科学技術担当官、ブロムベルグ参事官が参加されました。

私は、着物で参加したので、ユダヤ人の方々に喜んで頂けました。

春の恒例行事ですが、2020年からはコロナ禍の影響により中止が続いていました。今回、三密を避けながら開催され、晴天にも恵まれて、美しい桜が咲き誇る中、和やかな雰囲気の中で楽しく過ごしました。

参加者による居合道の演武も素晴らしかったです。

在日ユダヤ人とのたくさんの新しい出会いと祝福に満ちたひとときを過ごせたことを神様に心から感謝致します。



☆過越しの祭☆

今年の過越しの祭は、イエス様の受難日にあたる4月15日から22日まで、イースターにも重なる特別な期間でした。

去る4月15日、アメリカンクラブで開催されたハバット東京主催(ラビ・メンディ・スタケヴィッチ)のセデル(過越しの祭の食事会)に出席しました。

広い会場で十分にコロナ対策をした上で、在日ユダヤ人約100人と共にエジプト記と過越しの祭の深い意味を記憶しました。

過越しの祭の期間は、イースト菌(膨らむ性質から罪を象徴)をすべて取り除き、種なしパン(マツツア)を食します。

過越しの祭を祝うときは、テーブルの上に、参加者の人数より一つ多いグラスを準備するのがユダヤの伝統です。時には、杯だけでなく、席も準備します。これは「エリヤの杯」「エリヤの席」と呼ばれます。エリヤは死ななかつたので、神が彼をイスラエルに送って、メシアが来る準備をさせるという思想があります。ですから、ユダヤ人は過越しの祭のお客様として、エリヤに来て欲しいので、彼のために杯や席を用意するのです。

新約聖書では、エリヤの代わりにメシアを迎える準備をさせるために現れたのが、バプテスマのヨハネです。イエスを見て、彼はこう言いました。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」ヨハネ 1:29

神のご計画では、私達を贖うものは、最初から小羊でした。イエスは、素晴らしい神の小羊、罪のない神の御子なのです。イスラエルだけではなく、この世のすべての民族に贖いが及びました。肉体の贖いだけではなく、罪と死、そして闇の力からの贖いでした。

エジプトのユダヤ人たちが信仰により、傷のない小羊の血を入口の柱につけたのと同じように、現在の私たち一人一人もまた、神の小羊の血である、イエス・キリストの十字架の血潮を取り、家の入口ではなく、私たちの心と魂の入口につけなくてはならないのです。罪なき神の小羊が私たちの罪の身代わりとなり、十字架上でその尊い血を流し、私たちの命を罪から清めてくださることを神様に心から感謝致します。

イエス様の十字架による罪の贖いをユダヤ人たちも信じる事が出来ますようお祈りください。



☆ 日本イスラエル外交関係樹立 70 周年記念 ☆



今年は、日本とイスラエルが外交関係を樹立して70周年です。
去る4月29日、日本イスラエル友の会主催の「日本イスラエル国交樹立70周年祝賀講演会」が、ルミエール府中にて開催され約300名が集いました。

祝賀会では、イスラエル国歌「ハティクバ」と「君が代」を斉唱し、主催者からの挨拶とイスラエル大使館からの挨拶を頂いた後、「日本とイスラエルの繋がり」と題して、イスラエル初代首相デビッド・ベングリオン首相が、日本に宛てて70年前の1952年7月1日付けで書かれたお手紙の貴重な秘話を聞きました。私は深い感動で涙しました。そのお手紙を掲載させていただきます。

「デビッド・ベングリオン イスラエル首相からのメッセージ」

日本国民の皆様へ、共同通信を通じて、謹んで友情のメッセージをお送り申し上げます。このたびイスラエル・日本両国政府は、外交関係成立の意向を発表しました。お互いの国の首都に公使館が開設される日は遠くないと確信しています。

イスラエルと日本はアジアの両端に位置していますが、この事実は両者を隔てるものではなく、むしろ結びつけるものです。広大なアジア大陸は両国をつなぐ連結路であり、アジアの運命についての意識は両国共通の思いです。イスラエル国民は、欧州、アジア、アフリカなど全世界から帰還してきましたが、我々のルーツおよび過去、さらに未来はアジアにあります。人類の偉大な師は皆、アジアから出現しましたが、今や再びアジアは世界の諸国民の中であって、ふさわしい役割を担いつつあります。アジアの両端から両国の絆が拡がりつつあることを嬉しく思います。皆様の代表がイスラエルを訪れてくださって、真の民主国家、そして離散したユダヤ民族のホームとしての国を発展させようとする努力のみならず、現在携わっている農業や産業界の再建の様子をご覧いただいたことは、私どもの喜びとするところです。

私は再建に向かって日本民族が偉大な業をなされることを心から祈念し、それがアジア大陸の平和、発展、反映に寄与することを確信しています。
1952年7月1日

今後も日本とイスラエルがアジアの両端から両国の絆が益々拡がることを心からお祈り申し上げます。

☆ アート・ミニストリーの働きより ☆



去る3月16日(水)～21日(月) みどりアートパークギャラリーにて開催した「ありか展」は、相原さんご一家をはじめ、高木共子さん、そして小泉恵一さんが出展してくださいました。

3月19日、小泉恵一さんが、彫刻と言葉と弦楽「表現のありか」というタイトルで、作品と聖書の御言葉とチェロのコラボの聖書朗読会を開催してくれました。ダニエル書と詩篇118篇を小泉恵一さんの重厚感あふれるお声で聞き入り、御言葉が心に染み渡りました。小泉恵一さんの聖書の御言葉をそのまま表現されている作品が語りかけてくるようでした。御言葉と御言葉の間にチェロ奏者の即興演奏が更に魂に響き渡り、まさに神様がくださった崇高な時間でした

聖書を全く知らない大学生たちも参加し、展示作品を少人数で囲み、聖書の御言葉を魂で聞き入り、味わい、語り合う時間は、大変貴重な伝道の時間となりました。小泉恵一さんに改めて心から感謝致します。

アート・ミニストリーでは今後も聖書朗読会などを取り入れて福音をお伝えしていきたいと思っております。



☆ 祈りのリクエスト ☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)



☆世界中で起きている戦争、紛争、軍事侵攻、テロなどがなくなりますように。

☆ユダヤ人がイスラエルに帰還することができますように。

☆神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、平和の町であるエルサレム、イスラエルの平和が守られ、神様の計画と御心が成りますように。

☆イスラエルの国政、国内情勢のためにお祈りください。世界情勢が激しく動く中、世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進める事が出来ますように。

☆今年、日本とイスラエルの外交関係樹立 70 周年です。日本とイスラエルの関係があらゆる分野で発展し更に良い外交関係を築くことが出来ますように心からお祈り致します。

☆新型コロナウイルスの感染拡大が世界中から一刻も早く終息しますように。一人でも多くの方の命と健康が守られますように。コロナ禍の中で、イエスを信じて救われる魂が世界中で多く起こされますように。神様のご介入と助けを切に祈り求めます。

☆メシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエル国内で大胆に伝道できますように。

☆多くのユダヤ人がこの日本で、イエス・キリストに出会い救われますように。その為に私達が情熱を持って、神様の愛をもって、伝道する事が出来ますように。

☆日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。

☆主のご再臨のために。イスラエルの救いのために。日本のリバイバルのために。

☆ 2022年 夏のユダヤの祭り ☆



☑ 6月4日(土)~5日(日) シャブオット(ペンテコステ・五旬節)

シャブオットとは、ヘブライ語で複数の週の意味。過越しの祭から七週目にあたり、イスラエルで最初の大麥の収穫を祝ったことに由来する収穫祭です。また、3300年前にモーセがシナイ山で神様からトーラー(律法)を与えられたことを記念します。

初穂の祭りの50日後に祝われるので、キリスト教徒にとっては、ペンテコステ(ギリシャ語で50日目の意味)でもあります。使徒の働き2章でイエスの弟子たちに聖霊が注がれたのもこの日でした。

☑ 8月6日 ティシャ・バ・アブ(神殿崩壊日)

ヘブライ語で、ティシャとは9、アヴとはアヴの月(アブの9日)という意味です。伝承によれば、紀元前586年のこの日にバビロニア人によってエルサレムの神殿が破壊され、その後、建てられた第二神殿も紀元70年のこの日にローマ人によって破壊されたとされます。ユダヤ民族最大の悲劇の日として記憶されています。

ユダヤ民族は、断食をして嘆き悲しみ、多くの人々が第二神殿で唯一残った西壁に集まって祈りを捧げます。

2022年6月 夏号発行(季刊誌)